

平成29年度 第2学期始業式でこんな話をしました。

2学期がスタートしました。突然、局部的に豪雨がきたり、竜巻などに見舞われたりする不安定で恐ろしい天候が各地で続いています。幸い、本校では天候にも恵まれ（かなり暑いですが）、新学期を迎えることができました。

新聞を読んでいたら、心に残る社会学者・橋爪大三郎さんのコラムがあったので、学期の始まりに当たり、その内容を紹介したいと思います。

そのコラムは、『星を投げる人』の話をしよう—という書き出しで始まります。筆者が、昔、アメリカの教会である牧師さんから聞いた話。老人が、ある朝、海岸を散歩していると、ひとりの少年が何やら海に投げている。「何をしているんだい？」「ヒトデを投げているのさ」見ると、海辺には見渡す限り、無数のヒトデが引き潮で打ち上げられている。おまけに太陽もギラギラ照りつけていて、やがて死んでしまうだろう。「でもね、こんなにたくさんヒトデだらけなのに、何の足しにもならないよ。」少年はじっと聞いていたが、再びヒトデを掴んで海に投げた。「でも、このヒトデには大きな違いだと思ふよ。」

そう、この話は、実は、ローレンス・アイズリーという作家の『星投げ人』『星を投げる人』というものがもとで、いろいろな人が語りなおして受け継がれているようです。筆者はコラムの中で、この話の肝は、少年の言った「違い」、「違い」とは何かというところにあると言っています。老人の「何の足しにもならない」=no difference、少年の「違いがある」=make a difference。この「違い」=difference とは何なのか。

もちろんヒトデはこんなにたくさんいて全部を助けることなんてとうていできない。その行為は徒勞に見えます。まさに徒勞・無駄に思える行為。でも、その少年はこう言いたいのです。「『この（今海に投げた、この）』ヒトデは確実に助かるよ。」そして、少年はひとつずつヒトデを投げ続ける。それならできるから。公平・平等という価値観や考え方がありますが、そういう点からいうと、（助からないヒトデはたくさんいるので）公平でも平等でもない。でも、そういう理屈ではないのですね。

ネットで調べてみたら、この「違い」を「今投げたヒトデには意味があるでしょ」と訳しているものもありました。

筆者はここで、この夏封切られた映画『ハクソー・リッジ』に触れます。先の大戦で、壮絶な戦いだった沖縄戦の断崖を意味する「ハクソー・リッジ」。主人公は、信仰から銃を持つことを拒否し、上官や仲間から殴られても罵倒されてもその意思を貫き、銃を持たない兵士（衛生兵）として、戦場でひたすらアメリカ兵も日本兵も負傷した兵士を助け続けたデズモンド。救われた命は、75人とも実際は100人以上とも言われ

ています。それでも、とてつもなく多くの人が無残にも命を奪われていった戦場です。筆者は言います。彼の行為のように、ヒトデを投げ続ける少年のように、「それなら自分でもできる、とささやかな『違い』のために、悪戦苦闘している誰でもがいる」と。

そう、私たちはすぐに、こんなことやって何の意味があるの？意味ないじゃん？無駄じゃない？と言います。私も高校生の頃、理屈っぽいところがあり、そんなことに意味あるの？などと言っていたと思います。先生たちからすると扱いにくい生徒だったかもしれません。

ささやかかもしれない、ほんの小さなことかもしれない、でも、それならできる、その行為や悪戦苦闘には、「違い」がある、「意味」があるのだ。今さらながら気付かされました。

そして、そんなことを考えていたら、昨年、亡くなった永六輔さんのことば、「無駄なものは何もない。ただ、人が無駄にするだけだ」ということばを思い出しました。勉強でも、仕事でも、練習でも、そもそも無駄なこと、私たちの周りに無駄なものなんて存在しないんだ。その人が、無駄にしているだけなのだ…と。

すでに準備が始まっていますが、生徒会最大の行事・文化祭があります。準備の進んでいるクラスもまだまだのクラスもあるでしょう。これから進めていく中で、非協力的な人に腹を立てたり、仲間と意見が合わずぶつかったり、もめたりすることもありますね。でも、無駄なことは何もないのです。無駄にするか、無駄になるかは、自分なのです。

3年生も、最後の文化祭。思いっきり楽しんで頑張ってください。しかし、そうした期間でも、一つ単語を覚え、一つ公式を理解し、一つ問題を解き…そういうささやかな「違い」こそが「意味のあるもの」なのです。当事者には、なかなか分からないかもしれません。だから、あえてもう一度言います。文化祭の準備でも、文化祭中の受験勉強でも部活動の練習でも、これなら自分でもできる、そうしたささやかな毎日の「違い」こそが、あなたの目標の実現につながっていくのだと思います。

みんなと一緒に汗を流し、実りある2学期にしましょう。